



経営者訪問

真の情報セキュリティは作業効率を上げる

LRM株式会社 代表取締役社長 幸松 哲也



（ゆきまつ てつや） 徳島大学工学部卒業、大手システムインテグレータでシステムエンジニアとして勤務したのちに、外資系IT企業、システム開発会社を経て2006年にLRM株式会社を設立。当初は情報セキュリティ事業のみであったが、2008年8月よりウェブ事業をサービス開始している。情報セキュリティのコンサルタントとして、現在までに60社以上のプライバシーマーク認証取得支援、ISO27001/ISMS認証取得支援を行っている。ホームページはhttp://www.lrm-corp.jp/。

小規模会社にニーズ

そもそも、より仕事がしやすくなるように活用しているデジタルやIT機器だが、いつのまにかそのITに振り回され、かえって仕事が増えてしまっているケースも多い。そうした会社に真のIT活用などをサポートするため活躍しているのがLRM株式会社代表取締役社長の幸松哲也氏だ。IT技術の最先端分野でコンサルティングサービスを展開するも、それを使うのは人だからこそ、それを使う人間を意識している。ITと人との確かな融合を手がけるプロに話を聞いた。

（久保愛希也／取材・文）

情報セキュリティのコンサルティングと、ウェブ事業をされているということですが、情報セキュリティというのはいったいどのようなものでしょうか？

幸松 ISO27001/ISMSとプライバシーマークの認証取得の支援をやっています。簡単にいうと、ISO27001/ISMSのほうは、会社にとって価値ある情報を守りましょう、プライバシーマークのほうは、個人情報を守りましょうということ。依頼が多いのはプライバシーマークです。ISO

27001/ISMSは範囲が広く、認証取得が難しいイメージがあるようですが、実際にはプライバシーマークと変わりがありません。

ウェブの事業は、具体的に何をされていますか？
幸松 ホームページの制作、初期費用が無料で、完全成果報酬型のECサイトの運営代行サービス「ECAGENT」、SEOコンサルティング、それから経営者プログラムの作成もやっています。プログラムは作りたいけど、書くのは面倒という社長さんも多くいらつしやるので、イン

依頼が多い プライバシーマーク取得

プライバシーマークの取得は、依頼が多いです。それは、個人情報を守りたいという意識が高まっているからです。また、プライバシーマークを取得することで、お客様の信頼を得やすくなります。特に、中小企業にとっては、プライバシーマークの取得は、競争力を高めるための重要な手段です。

タビユーをさせていただき、それをもとにブログ記事にするんです。社長さんの思いやヒストリーを聞けるのは面白いですね。

分かります。わたしもこの社長インタビュー企画を楽しんでいますから。ところで、会社を設立されたのは平成18年ということですが、それ以前は何をされていたのですか？何がきっかけで独立されたのでしょうか？

幸松 以前は、システム会社のコンサルティング事業部にいました。そこで、情報セキュリティのコンサルタントとして活動していました。当時、事業部長とわたし2人しかいない部署だったので、その事業部長が独立するといつて、自分はどうしようかと考えたのがきっかけでした。強く意識していたわけではなく、もともと起業というか自分で仕事をすることに気がついていたのだと思います。そして、仲の良い同僚と一緒になり、プライバシーマークの取得をメインにした会社を設立することにしました。

当時の株式会社社リーガルリストという社名でした。設立が同18年12月で、そのと

きはまだわたしは会社員でしたから、実質的には活動をしていたんです。同19年3月にシステム会社を退職し、本格的に営業活動を始めました。わたしはもともと情報セキュリティのコンサルタントとして活動していたのですが、会社を設立したらウェブもやりたいて考えていました。

ウェブはものすごく可能性を感じたんです。同20年の8月からウェブ事業もスタートさせることができました。

今後の方向性はどのようにお考えですか？

幸松 情報セキュリティのコンサルティングと、ウェブという2つの柱は変わりませんが、メインはウェブのほうにシフトしてきています。とくにECサイトの運営代行は成功させたいです。目標は、今後3年で1千店舗。

1日に1サイト作らないといけないですね。幸松 そうです。やりやすい。もうちょっと人手が要りますけれど。このサービスを成功させるために大切なのは売れる商品と、会員をいかに獲得するかですね。それから、いま考えているのは、プライバシーマークのASPというか、ウェブを使って取得できる仕組みを作りたいなど。プライバシーマーク取得のニーズはやはりありますし、これからさらに、規模の小さな会社さんにも求められてくると思います。コンサルティングというのは、どうして

「使っているのは人だから人のためになる仕事をする」

金額が高くなりますが、わたしも会社の強みであるウェブを合わせ、安価な新しいサービスを作りたいですね。

最後に、社長のビジネスポリシーをお聞きしたいのですが、大切にしている考え方はありますか？

幸松 「人間を意識すること」を大切に考えています。ウェブというと、人の顔が見えないデジタルなものと考えがちですが、使っているのは絶対に人間ですから。それから、当たり前の話ですが、人のためになることをしたいです。ISOのコンサルティングでいえば、認証取得するだけならすごく楽なんです。ルールに合わせて、これをやっておいて、と指導すればいい。でも、それだけでは意味がありません。ISO27001の認証を取得したことで、やるべきが増えた、というふうにはしたくないです。情報の取扱も良くなって、使いやすくなつた、といってもらいたいです。情報セキュリティが良くなったことで、すぐに情報を取り出せるようになり、作業効率が上がり、その結果、労働時間が減ります。規格ありきではなくて、お客さまありきで、そこまで考えたいと思っています。やはり意識するのは人ですね。いま人からのご紹介で仕事につながるというのが多いのですが、人間関係、信頼関係が本当に大切なというのを改めて感じます。

取材・文 久保愛希也（ゆきや）
（株）Inquire Consulting 代表取締役、元国税調査官、退職後、ITベンチャー企業（IPO支援・財務・経営担当）を経て東証1部上場企業の経営企画部長。平成20年経営コンサルティング会社（株）Inquire Consulting 設立。

